

検討会後半の進め方について

消防団員数の現状

- 消防団は、我が国の防災体制において、地元に着した「地域防災力の要」として極めて重要な役割を担っているが、災害の多発化・激甚化に伴いその役割が多様化する一方で、団員数は減少が著しく危機的な状況となっている。
- 近年は、退団者数が横ばいなのに対し、入団者数の減少が著しく、特に、20代の入団者数がここ10年間で約4割減少、30代も約2割減少するなど、若年層の入団者数の減少が、団員数減少の大きな要因となっている。
- 今後、消防団員を確保していくためには、若年層の入団が不可欠であるが、少子化の進展により、若年層そのものが減少していることに加え、一般に若年層の価値観が変化してきていると言われている。

※ 若者の価値観の変化の例

平成30年版子供・若者白書「就労等に関する若者の意識」によると、仕事より家庭・プライベートを優先したいという若者は、前回調査（H23年度）に比べ10ポイント以上高く、男女とも半数を超えている

時代の変化に合わせた消防団変革の必要性

- 若年層の加入促進には、若年層の価値観や意識が変化しているという実態を踏まえ、消防団を若年層が参加しやすいものに変革していくことが重要となる。
- これまでの検討会においても、若年層が参加しやすい消防団への変革について、各委員からご発言をいただいている。

(参考) 第4回までの検討会における委員ご発言要旨

- ・ 消防団活動に対する親世代の理解というのが非常に様々である。そういう状況で、理解を得られないという現状があるというふうに思っている。(第1回 小出委員)
- ・ 消防団の歴史と伝統はとても長く大切なものではあるが、社会状況の変化にあわせ、現代の若者に魅力のあるような新しい消防団のスタイルを作り上げていくことも処遇改善の議論と並行していくべきではないか。(第1回 室崎座長)
- ・ 研修、教育、訓練の範囲をもっと広げていくこと、そして社会の防災ニーズ、あるいは消防団員のやる気を満たしていくことが重要。(第3回 重川委員)
- ・ 消防団の活動環境の整備、また、負担軽減を図らなければ、団員の増加や、また減少を食い止めることは大変難しい。(第4回 太田委員)
- ・ 若い人たちから見たときに、消防団というのはどう見られているのか、どう見ているのか、そういうものをもう少し考えていかなきゃいけない。(第4回 秋本委員)

検討会後半のテーマ

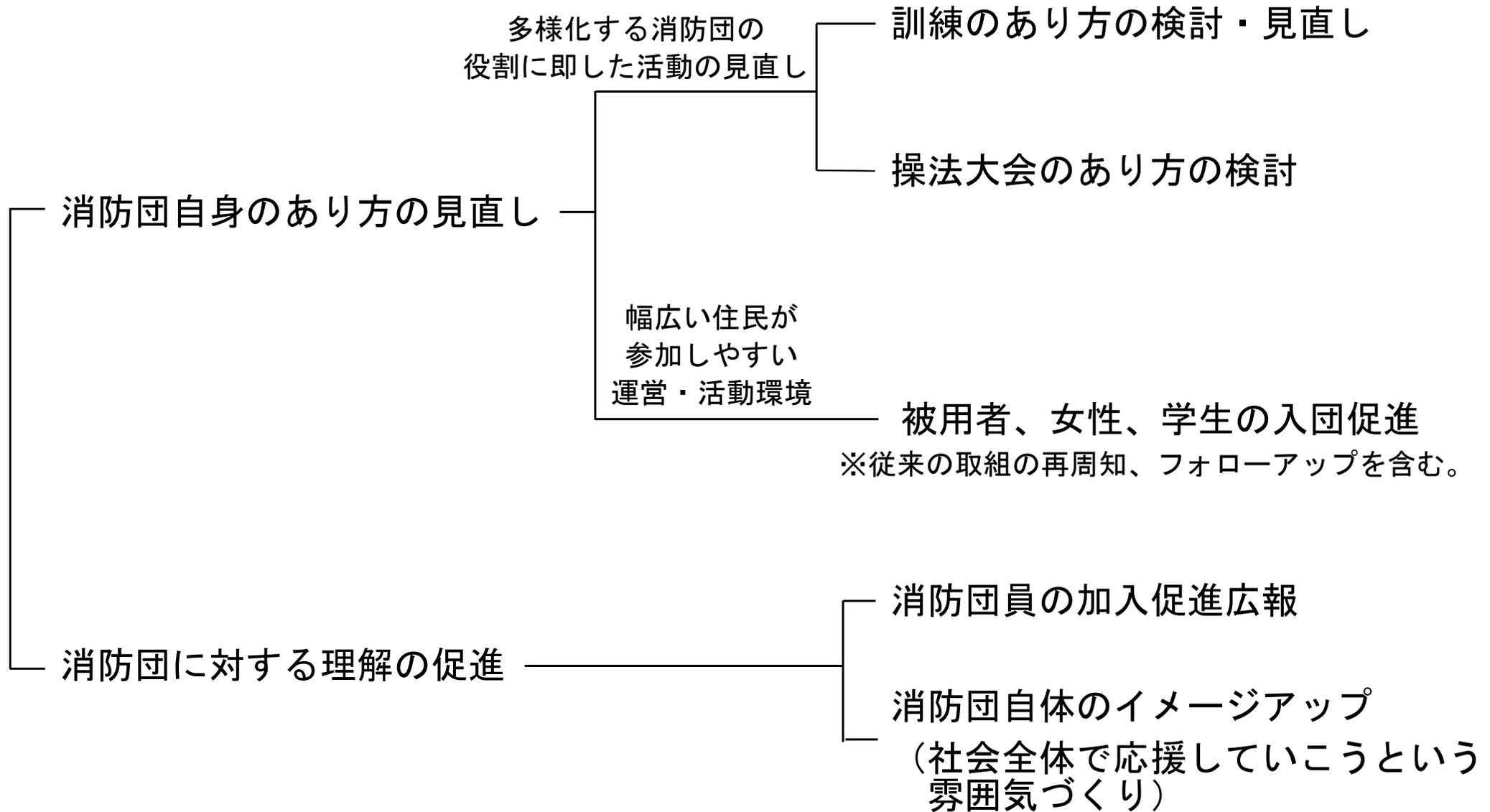
- 検討会の前半（第1回、中間報告等）で、後半のテーマとすべき事項として、以下の事項があげられていた。
 - ・ 広報の充実（周囲の理解、社会的な評価の向上、社会全体で応援していこうという雰囲気づくり）
 - ・ 社会環境の変化にあわせた消防団のあり方（訓練のあり方の検討・見直しを含む）
 - ・ 従前の取組の再周知、フォローアップ

- 前ページまでの立論と上記項目、その他の関連項目をあわせて整理すると、次ページの概略図のように示せるのではないか。

- 検討会後半は、この概略図に沿いつつ、個別の論点について議論してはどうか。

- また、今後の検討においては、より実態に即した議論とするため、各地方公共団体が実施したアンケート結果や消防庁に直接寄せられた意見等も適宜参考としてはどうか。

検討会後半の論点の概略図

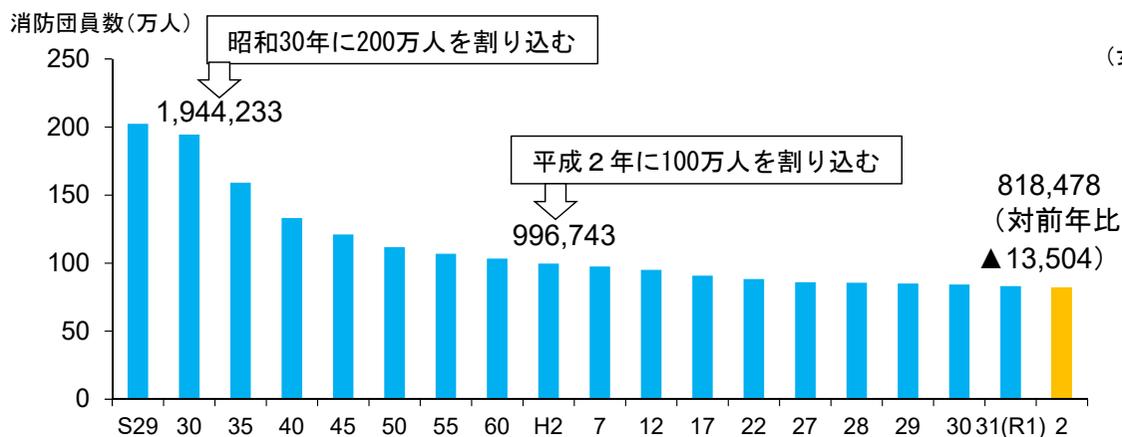


消防団の組織概要等に関する調査の結果（令和2年度）

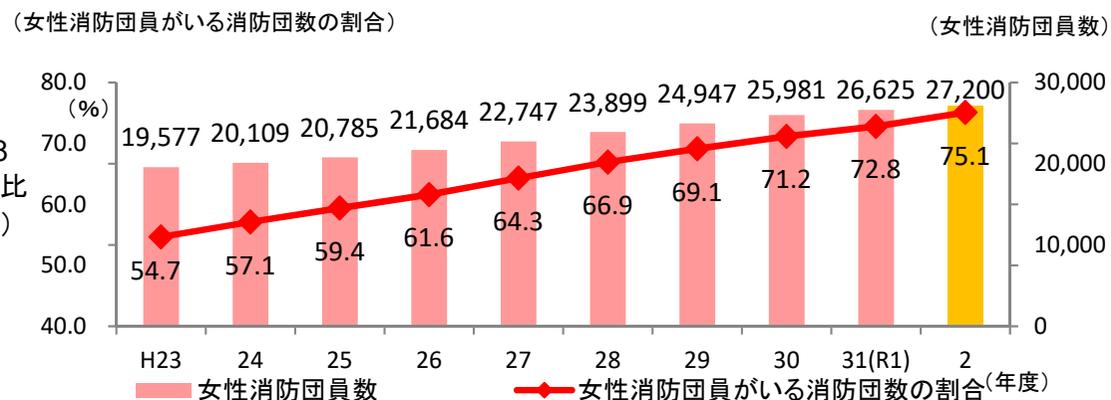
【参考】第1回
検討会資料

- R2.4.1時点の消防団員数は818,478人（▲13,504人（▲1.6%）。入団者数：43,268人、退団者数：56,772人）
- 重点的に取り組んできた女性団員、学生団員、機能別団員については増加傾向
 - ・ 女性団員 27,200人（+575人（+2.2%）） ※ 女性団員がいる消防団数は1,651団（+51団）
 - ・ 学生団員 5,404人（+215人（+4.1%）） ※ 学生団員がいる消防団数は640団（-31団）
 - ・ 機能別団員 26,095人（+2,559人（+10.9%）） ※ 機能別団員制度は558市町村で導入済（+57市町村）

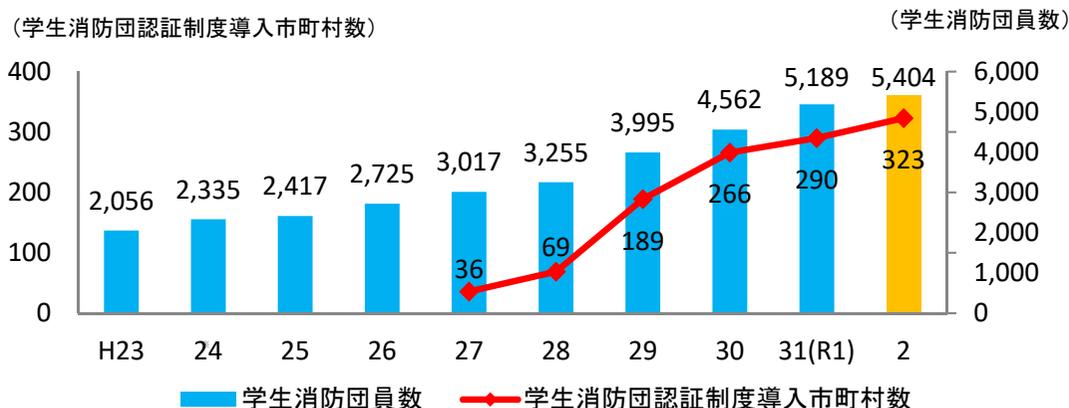
1 消防団員数の推移



2 女性消防団員数の推移



3 学生消防団員数の推移



4 機能別消防団員数の推移

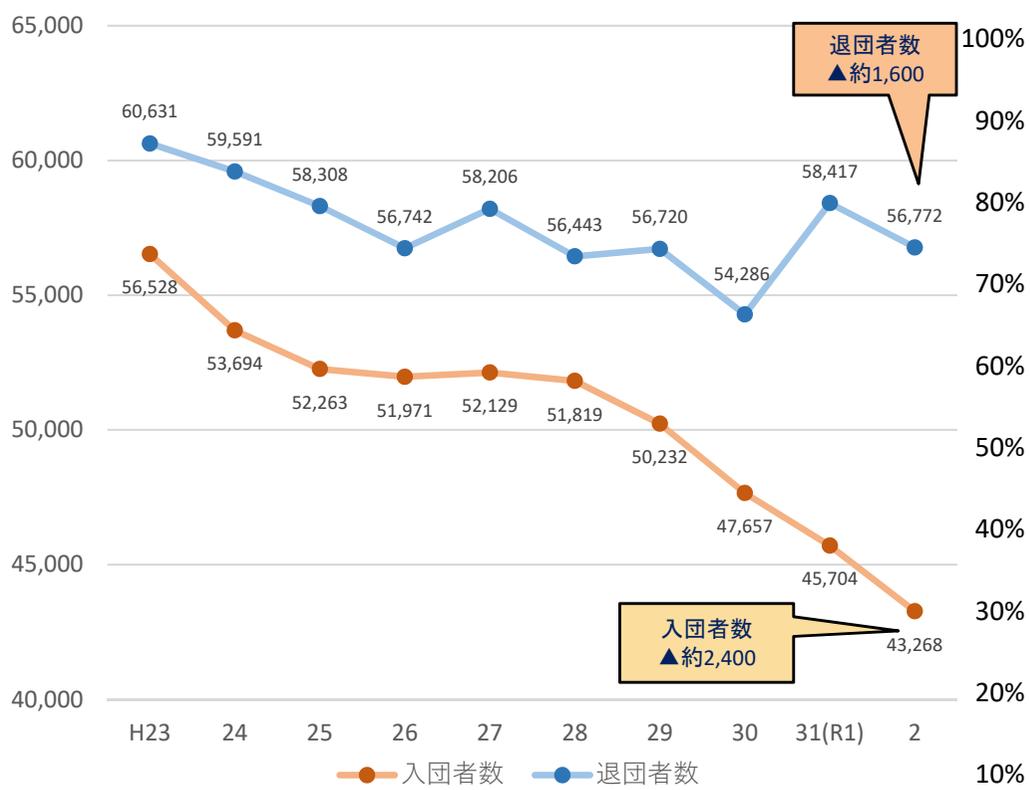


消防団の組織概要等に関する調査の結果等（令和2年度）

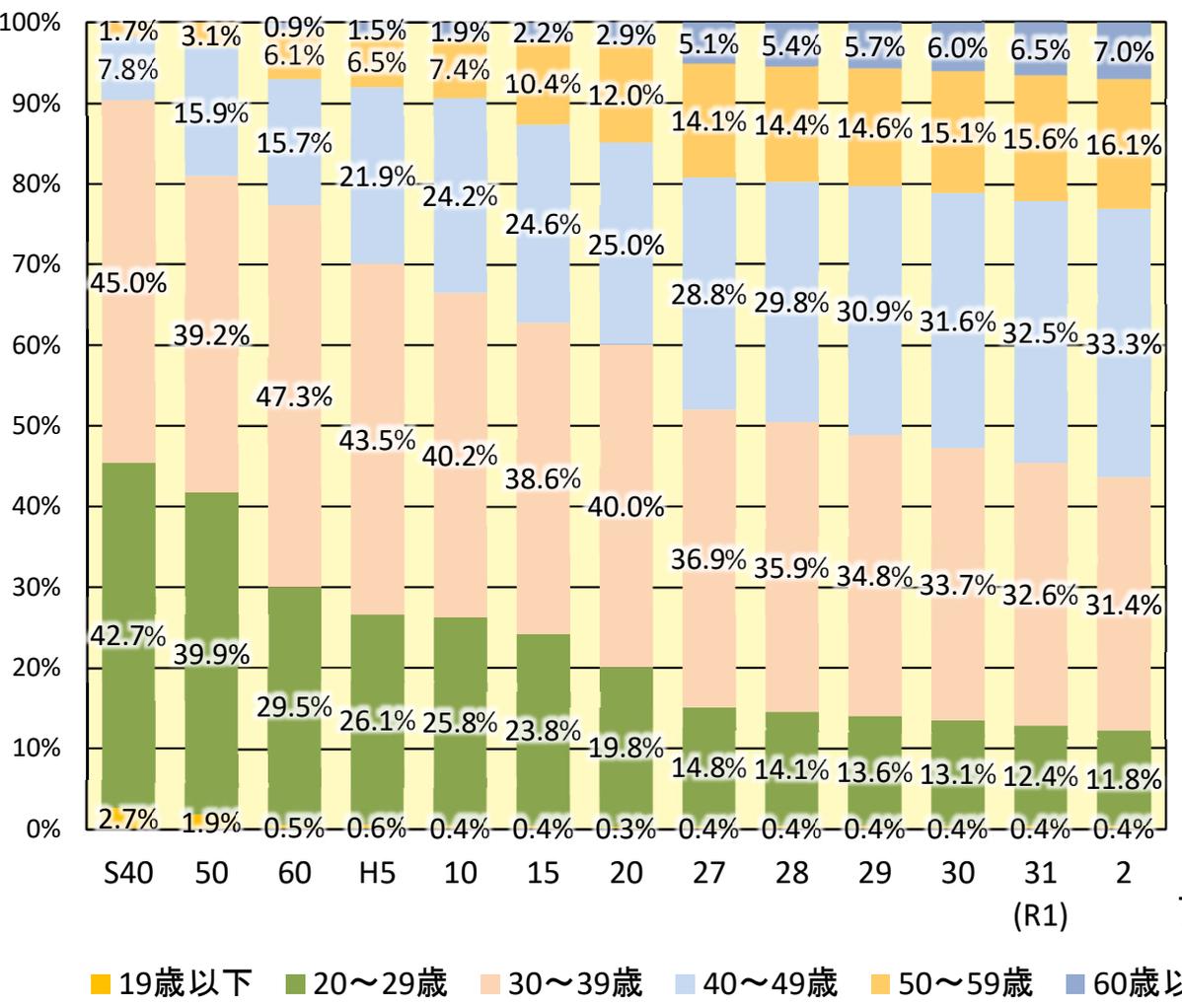
【参考】第1回
検討会資料

- H31（R1）に比べて対前年団員減少数が拡大した理由は、退団者数の減少以上に、入団者数が減少したことによる。
また、退団者数は、近年、一定の水準で推移している一方、入団者数は、減少傾向が続いており、特にH29以降は減少幅が大きくなっている（下図①）。
- 年齢階層別に消防団員数を見ると、若年層の団員構成率が減少している（下図②）。

①入団者数及び退団者数の推移

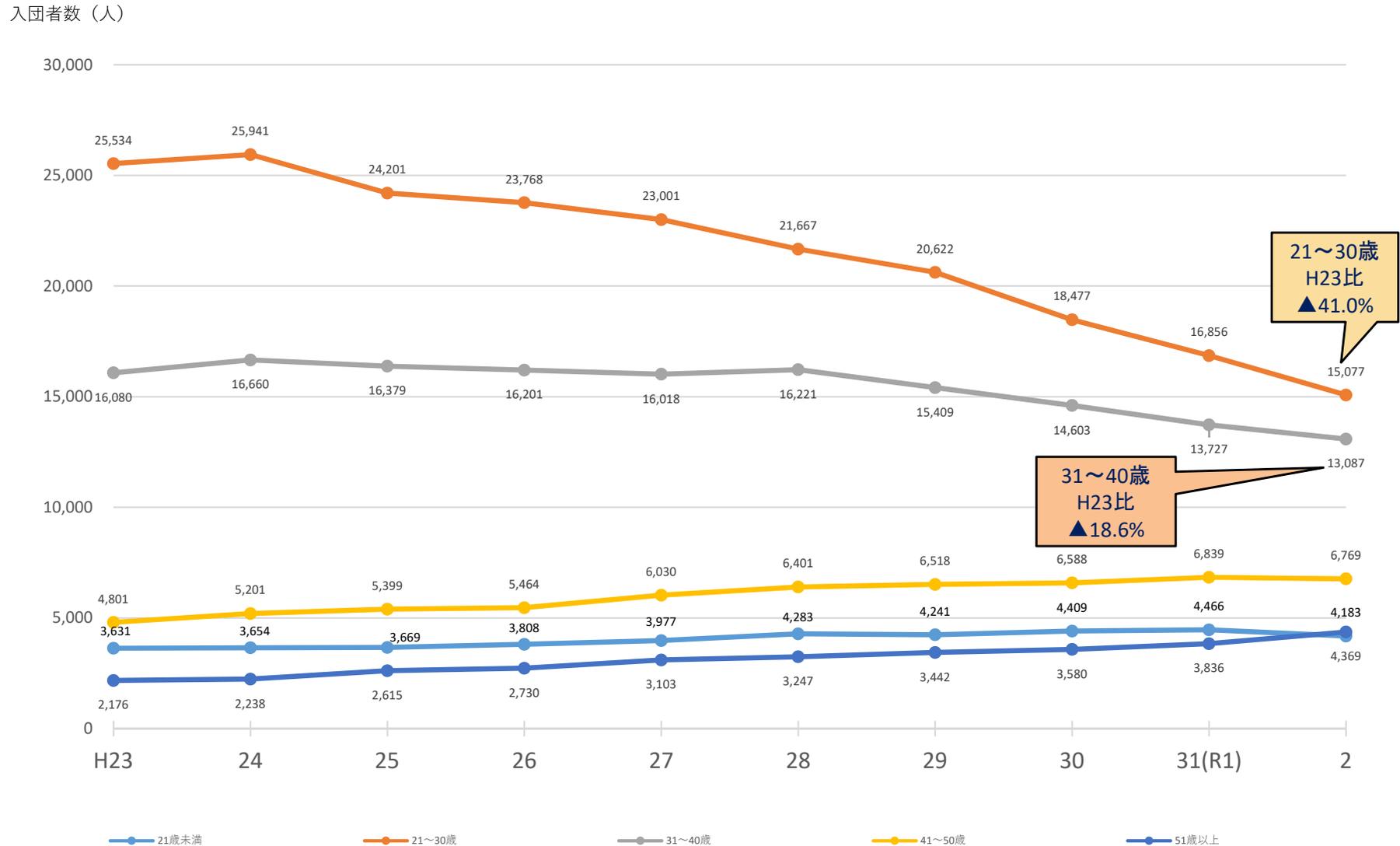


②年齢階層別消防団員数の推移



- 年齢階層別に入団者数を見ると、**若年層（20歳代、30歳代）**の入団者数は、**減少傾向**にある。
一方で、**40歳代及び51歳以上の入団者数**は、**増加傾向**にある。

年齢階層別入団者数の推移



○ 消防団の出動回数

総数：平成22年から令和元年で約1割増加（H22:616,430回 → R1:685,499回）

火災：平成22年から令和元年で約3割減少（H22:39,374回 → R1:30,360回）

風水害等の災害：平成22年から令和元年で約2.5倍に増加（H22:3,958回 → R1:10,114回）

